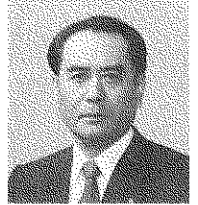


国際ガラスデータベース構築に期待する

石塚硝子株式会社 取締役社長 石塚 芳三



ガラスは4000年以上の歴史を持っていますが、火山活動により作られた天然のガラス黒曜石(Obsidian)が、それ以前からこの地球上に存在していたことになる訳で、今日のニューガラスの発展ぶりを考えますと誠に感慨深いものがあります。

ガラス産業の発展は、これら長い歴史の中で一步一步進められてきましたが、今後はさらに競合材料との競争に打ち勝ち、さらに発展していかなければならず、そのためには、従来以上にしっかりとした基礎づくりが不可欠の条件となります。

さて、約3年の調査期間、準備期間を経て、今年度から具体的作業に入り始めた国際ガラスデータベース構築の事業は、この基礎づくりとして、そして国際化の時代の中での対応として、(社)ニューガラスフォーラムの存在意義を高める上では誠に意義のある、且つ大変重要な事業であります。

振り返りますと、この国際ガラスデータベース構築事業は、ニューガラス基本問題懇談会で提起された基本事項としての下記の3

点、即ち、

1. 産学官の共同
2. サプライヤーとユーザーの協力
3. 国際協力

を具現化するものでもあります。

また、現古本次郎会長の云っておられる(社)ニューガラスフォーラムの今後の方向、

1. ニューガラスフィールドの拡大
2. ニューガラス技術基盤の拡充
3. 会員相互のコミュニケーションの活発化
4. 国際的協調

にのっとった事業でもあります。

そして、膨大な労力と時間、並びに多大な費用がかかるこの事業は、ニューガラスフォーラムの存在があって始めて為し得る事業でもあります。

約9万件の組成と物性のデータが、オフラインシステム、コンパクトディスクに収められ、使用者サイドに適切な価格で提供され、更に定期的な改訂と増強もあわせて継続されていくとの方針は、時代のニーズにも合致した、すばらしいものであります。

国内的にはニューガラスの技術基盤の整備
拡充とニューガラス産業発展の基礎づくりに
多大の効果が期待されますが、同時に国際的
にも同様多大の貢献をすることになるものと
確信いたします。

次にこの国際ガラスデータベース構築事業
の進め方についてであります。 (社)ニュー
ガラスフォーラム自体が主体性をもち、構築
ワーキンググループ、経済性向上ワーキング
グループをそれぞれ設置し、技術面、経済面、
両方の視点から、バランスをとりながら進め
ていくとのことであり、民間活力を利用した
まさに当を得た進め方で、且つ、この推進方
法自体も前例がなく、誠にユニーク且つパイ
オニア的で、ニューガラスという名称に、ふ
さわしいものであると考えます。

従来から定期的に開催されておりましたセ
ミナー、研究会、基礎講座、ニューガラス国
際シンポジウム等々の活動は、今後とも継続
されるとのことであり、今後益々、(社)ニュー
ガラスフォーラムの活動のソフトウェア面
での充実がなされていくものと考えられま
す。

これらソフトウェア面の充実をベースに、
光機能、電子電気機能からバイオ機能にいた
るまで、ニューガラス産業の可能性の追求は、
産業サイドとして一段と推進せねばならない
使命であります。

(社)ニューガラスフォーラムは、設立後3
年を経過し、関係者各位の努力により、その
活動も当初設定した基本にのっとり、順調に
推移して今回この様な大規模な事業に取り組
む段階まできたのであります。

国際ガラスデータベースの構築という事業
が、このように従来ない新しい発想と進め方
の中で行われていく訳でありますので、会員
会社として当然出来る限りの協力をさせてい
ただく所存であります。同時にこの事業が、
2年後大成功のうちに完成することを望み、
且つ期待するものであります。

最後に(社)ニューガラスフォーラム発展の
基礎づくりにご尽力頂いた関係者各位、又運
営面で大変なご努力を願っている事務局の
方々、ならびに各委員会の委員の方々に敬意
を表し厚くお礼を申し上げる次第でありま
す。